日本シベリウス協会　シベリウス生誕 150 年シリーズ

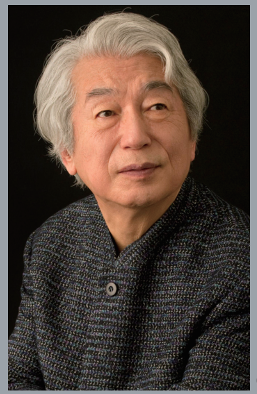
室内楽 vol.1　クァルテット&クインテット演奏会　2013 年3月31 日(日)

シベリウスの出発点となった〈室内楽〉は、姉弟との「トリオ」にはじまりました。そして音楽院の卒業作品「弦楽四重奏曲」で、楽壇に輝かしいデビューを飾ったのです。ブゾーニとの交流によって触発された、若き感性の結実である室内楽作品。その古典的スタイルの行間には、後に開花するシベリウスの萌芽と、彼自身の言葉が聴こえてきます。次代を担う若手から日本を代表する弦楽四重奏団、当協会のスペシャリストによる本邦初演を含むユニークなプログラムは必聴です。2015 年へむけて新しい「シベリウス」を体験してみませんか！

シベリウス生誕 150 年シリーズ　室内楽　音楽監督　佐藤まどか

シベリウス生誕 150 年を迎える 2015 年を記念して、日本シベリウス協会はこの偉大な作曲家の作品演奏と研究発表の企画を継続的に行ってきました。昨年はシベリウスの全ピアノ作品演奏という、世界でもこれまで類を見ない規模のコンサートを二夜にわたり行い、広く世の注目を集めましたが、それに続き 2013 年には すみだトリフォニーホールと共催で、室内楽作品を二期にわたる企画で行います。シベリウスは幼少から姉弟と室内楽に親しみ、その経験をもとに多くの室内楽作品を作曲しています。近年に至るまでその大部分がおおやけにはされず書庫で眠ってきましたが、現在ではその存在が明らかになると共に、未出版の作品でも演奏されるようになり、作曲家シベリウスの萌芽にも注目が注がれるようになりました。フィンランドからの招聘音楽家、当協会所属のアーチストほかの多彩な演奏家たちがお届けする〈シベリウスの新しい魅力〉への旅に、ぜひ皆様のご協力をお願い申し上げます。

日本シベリウス協会会長　舘野　泉


© Akira Muto

第一部　初期の弦楽四重奏曲　12：00 開演

弦楽四重奏曲 変ホ長調　JS184 (1885 年)

上野学園大学　小野田輝紀 Vn1　嶋脇真紀 Vn2　上津曲倫代 Va　柴野亜紀子 Vc

弦楽四重奏曲 イ短調　JS183 (1889 年)

桐朋学園大学　横島礼理 Vn1　桐原宗生 Vn2　古屋聡見 Va　村井 智 Vc

弦楽四重奏曲 変ロ長調　作品 4 (1890 年)
アダージョ ニ短調　JS12 (1890 年)

東京藝術大学　メンバー未定

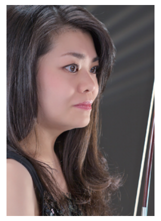
第二部　ピアノとの四重奏曲、五重奏曲　16：00 開演

ピアノ四重奏曲 ハ短調　JS156 (1891 年)

飯田佐恵 Pf　澤田幸江 Vn1　大西智子 Vn2　高木俊彰 Vc

ピアノ四重奏曲 ニ短調　JS157 (1884 年)　日本初演

久保春代 Pf　佐藤まどか Vn1　本郷幸子 Vn2　松本卓以 Vc



ピアノ五重奏曲 ト短調　JS159 (1890 年)

飯野糸穂子 Pf　クァルテット ヒムヌス：
山本翔平 Vn1　小林朋子 Vn2　松井直之 Va　髙木慶太 Vc

第三部　円熟期の弦楽四重奏曲　19：00 開演

マルティン・ウェゲリウスのためのフーガ JS85 (1889 年)

弦楽四重奏曲　ニ短調作品 56「親愛なる声」(1909 年)

アンダンテ・フェスティーヴォ JS34a (1922 年)

クァルテット・エクセルシオ：西野ゆか Vn　山田百子 Vn　吉田有紀子 Va　大友 肇 Vc

クァルテット・エクセルシオ
年間を通じて 70 回以上の公演を行う常設の弦楽四重奏団。東京、京都、札幌での定期演奏会ではベートーヴェンを軸に王道レパートリーを展開、また「ラボ・エクセルシオ」では『世界めぐり』や『20 世紀 日本と世界』『ラボ・エクセルシオ新章』と銘打った斬新な企画でも注目を集めている。一方で、幼児〜学生のためのコンサートを通じて、一般大学をはじめさまざまなコミュニティーでの室内楽の聴衆の輪を広げていく活動にも力を注いでいる。94 年桐朋学園大学在学中に結成。'96 年第 2 回大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門第 2 位。'00 年難関の第 5 回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール最高位、同時にサルバトーレ・シャリーノ特別賞を受賞。'09 年には第 19 回新日鉄音楽賞「フレッシュアーティスト賞」受賞、エクセルシオが全曲演奏した作曲家グループ「クロノイ・プロトイ」の公演が、サントリー芸術財団から第 9 回佐治敬三賞を受けるなど受賞歴多数。現在、サントリーホールの「室内楽アカデミー」で、コーチング・ファカルティを勤め、後進の指導にもあたっている。

アンドリュー・バーネット氏（英国シベリウス協会事務局長）からのメッセージ

日本シベリウス協会のこの素晴らしいプロジェクトは、2013 年のもっとも重要なシベリウスのコンサートシリーズの一つになるでしょう。ほとんどが稀にしか聴くことのできないこれらの作品を、自主公演でとりあげることによって人々が聴けることの価値は計り知れません。このプロジェクトによってシベリウスをよりよく知っていただき、彼のキャリアにおける重要な初期作品の真価を問うことができるのです。英国シベリウス協会として、また個人的にもコンサートの成功を心よりお祈りしています。

UK Sibelius Society, Andrew Barnett

佐藤 まどか　Madoka Sato, violin
東京藝術大学大学院博士後期課程修了。ヨーロッパで研鑽を積み、シベリウス研究で博士号取得。シベリウス国際ヴァイオリンコンクール第 3 位、プラハの春国際音楽コンクール特別賞、ヴァクラフ・フムル国際コンクール最高位など受賞多数。ソロを中心に、国内外で室内楽、現代音楽など多彩な演奏活動やレコーディングを行っている。上野学園大学講師。日本シベリウス協会理事。北海道文化奨励賞受賞。

飯田 佐恵　Sae Iida, piano
昭和音楽大学卒業、同専攻科修了。フィンランド政府奨学金等を得て国立音楽院シベリウスアカデミーにて音楽博士号を取得。日本、フィンランド各地や音楽祭でリサイタル。昭和音楽大学・同短期大学部非常勤講師、同附属音楽・バレエ教室講師。日本シベリウス協会運営委員。

澤田 幸江　Sachie Sawada, violin
愛知県立芸術大学音楽学部卒業。中村桃子賞、及び桑原賞を受賞。シベリウスアカデミーのソリストコースを最優秀の成績で卒業。第 3 回名古屋音楽ペンクラブ賞受賞。現在、三重大学教育学部音楽科非常勤講師。フィンランド・ラ・テンペスタ室内オーケストラのメンバー。日本シベリウス協会会員。

大西 智子　Tomoko Ohnishi, violin
4 才よりヴァイオリンを始める。岩谷悠子、五十嵐由紀子各氏に師事。MBS 合奏コンクール文部大臣賞受賞。'97 年相愛大学音楽学部卒業。京都フランスアカデミーで古楽奏法を受講、奨学生としてサント音楽祭に参加。日本シベリウス協会会員。

髙木 俊彰　Toshiaki Takagi, violoncello
名古屋市立菊里高等学校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部卒業。卒業時に同声会賞を受賞。藝大在学中、奨学生としてパリ・エコール・ノルマル音楽院へ留学し、ディプロマを取得。現在、菊里高等学校音楽科非常勤講師。

久保 春代　Haruyo Kubo, piano
東京藝術大学卒業。フィンランド国費留学生としてシベリウスアカデミー・ディプロマコースを最優秀で卒業。オウルンサロ音楽祭出演等演奏活動の他、教則本・北欧ピアノ作品の出版等も行っている。現在、上野学園大学教授。日本シベリウス協会理事。

本郷 幸子　Sachiko Hongo, violoncello
東京藝術大学卒業後、渡独。ドイツ国立トロッシンゲン音楽大学を卒業し、ディプロムを取得。ヘッセン州立ヴィースバーデン歌劇場オーケストラで、3 年半研鑽を積む。2010 年より上野学園大学非常勤講師。

松本 卓以　Takui Matsumoto, violoncello
東京藝術大学卒業、同大学院修了。在学中に福島賞受賞。藝大定期にてサン=サーンスのチェロ協奏曲を協演。古典から現代まで幅広いレパートリーに取り組む一方、タンゴなどジャンルを越えた演奏活動を展開している。東京藝術大学管弦楽研究部講師。

飯野 糸穂子　Shihoko Iino, piano
桐朋女子高校音楽科卒業、同大学音楽学部在学中フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院入学。同校ピアノ科一等賞卒業。シベリウス・アカデミーにて研修。日本、フランス、フィンランドの各地でリサイタル、室内楽等で活躍。洗足学園音楽大学講師、日本シベリウス協会理事、副事務局長。

クァルテット　ヒムヌス
2010 年東京都交響楽団、山本翔平と読売日本交響楽団、松井直之、髙木慶太、ベルリン国立歌劇場アカデミー出身の小林朋子の 4 人で結成。2012 年松尾学術振興財団より助成を受ける。リゾナーレ室内楽セミナーにて「緑の風音楽賞」受賞。